



~~ISSUED~~ / ~~APPROVED~~

NO. 200-004

DATE 10-7-1976

(SUPERSEDES NO. FAN-021)

REV.

DATE

(SUPERSEDES NO.)

REASON

1. 標 題： FA-200 方向舵ケーブルの素線切れ点検について。
2. 適用機体： FA-200 全機
3. 適用度： 要望事項
4. 目 的： 方向舵ケーブルの最前方ブーリー部において、ケーブルの素線切れが報告された事例があったので、過去の実用データと、試験データとに基づいた点検方法要点と、判定方法について連絡する。尚、この T.B の発行により、従来の FAN-021 (FA-200 方向舵前方ケーブルの素線切れについて) を廃止する。
5. 指 示： FA-200、1000 時間点検項目 (フィールド・サービス・ニュース FAN-038) において、記載されている方向舵ケーブル素線切れの点検について、詳細方法を補足する。
6. 実施時期： 1000 時間点検時
7. 承 認： 航空局承認対象外
8. 所要部品： なし
9. 特殊工具： なし
10. 重量重心： 不変
11. 準拠資料： なし
12. 作業手順： (1) 点検の要点
連絡された素線切れ状況及び技術試験の結果から、点検時、特に注意する必要がある箇所は、図-1 の #1 ブーリーに接触している側 (即ち、曲げられたケーブルの内側部分) である。
これは、ケーブルの素線が、ブーリーとの接触によって摩耗することに起因している。また、ケーブルに作用する荷重は、右側よりも、左側ケーブルの方が大きいので、左側に注意を払う必要がある。

AIRCRAFT DIVISION

680 NISHIHARACHO UTSUNOMIYA TOCHIGI JAPAN 〒320
TEL 0286 (58) 1111 TELEX 720 3522 176

TECHNICAL BULLETIN 200-004

PAGE 1 OF 2

(2) 点検の要領

索の素線切れは、布でこすった場合、ひっかかることによって判定できる。布にケロシン等を浸し、ケーブル上の防錆油を除きながら行くと発見は容易となるが、この場合、点検後はグリス等で再防錆する必要がある。

(3) 判定方法

1000時間点検において、再使用の許容される最大の素線切れ本数は、ケーブル長さ25mmあたり3本以内である。従って、4本以上の素線切れが発見された場合は、索の交換が必要である。

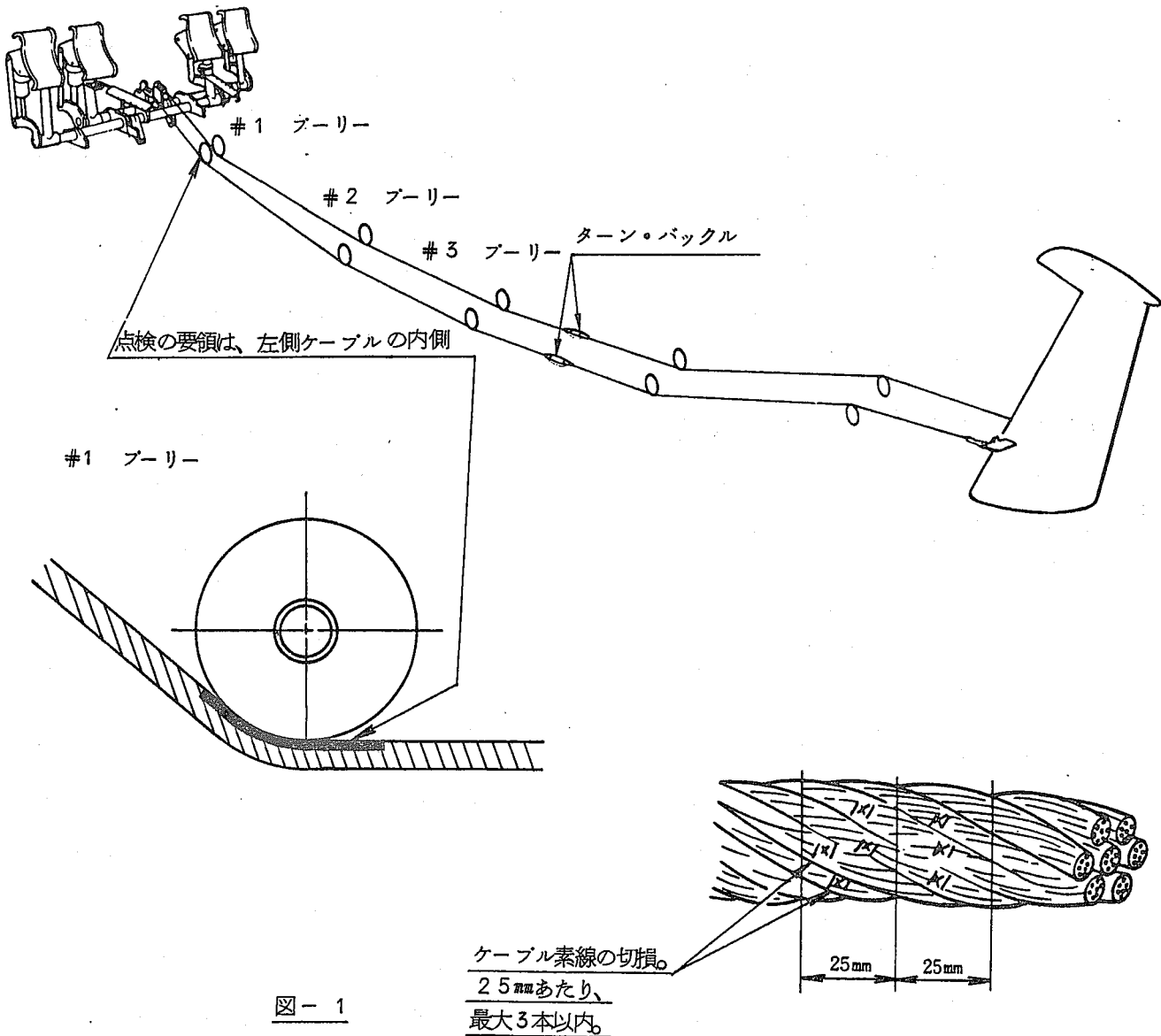


図-1